

〈研究ノート〉

# 近代日本における仏教看護活動 仏教系看護婦養成施設にみる特徴（その1）

小 野 尚 香

## は じ め に

仏教の歴史のなかに、病む人に救いの手をさしのべてきた足跡がある。日本の近代—明治，大正，昭和—という時代には，新しい看護の方法をはぐくみ，そしてその看護を人びとに提供した記録が残されている。

本研究ノートでは，明治期京都に設置された仏教系看護婦養成施設をとりあげる。1893年に京華看病婦学校が，1898年に本願寺看護婦養成所<sup>1)</sup>が，1906年に華頂看護婦学校<sup>2)</sup>が開かれた。これら3校が示した看護婦養成規則ならびに関連事項に注目し，行政文書と『浄土教報』，『華頂』，『婦人雑誌』を資料として用いて，仏教系看護婦養成施設の特徴をみていきたい。

## 1. 明治初期京都における仏教と医療・看護の関わり

明治はじめ，京都の仏教界は医療施策に寄与した。1872年に治療と医師養成と衛生事務を兼ねる京都府の施設が開かれたが，その際に有志寺院は，勧諭方というものを設けて寄付集めに奔走し建造物を提供した。当初青蓮院の境内に設置されたその施

---

1) 京都府立総合資料館蔵，府庁文書には，名称を「本願寺看護婦養成所」とし，「本願寺本派看護婦養成所ト記ス」とある。また，後，「本派看護婦養成所」と記載されている場合もある。

2) 1918年8月の生徒募集広告（『華頂』）から，「華頂婦人会看護婦養成所」となっている。

設は、仏教の伝統的な言葉である「療」という一文字を使い、療病院（のち京都府立医学専門学校および附属病院、現在の京都府立医科大学および附属病院）と名づけられた。そのころ、京都府の医療施設に寺院の建物がおおく提供されている。娼妓対象の梅毒病院である駆微院は建仁寺に、精神病院である癲狂院は南禅寺に、そしてコレラ患者収容の避病院は大覚寺、妙心寺などに設置された。江戸期、寺請制度によって幕府人民支配の末端機構として位置していた仏教界は、明治の幕開けから展開された神仏分離令、大教宣布、寺請制度廃止などの政策によって社会的立場を大きくかえた。前述のような府政への協力は、仏教界の衰退を防ぐひとつの方法であったともいわれている。

一方、医学・医療という面に目を向けると、1868年明治新政府は西洋医術の採用を公示し、近代西洋医学に立脚した医療制度を構築するための方策をつぎつぎに打ち出していった。それはまた、千年の歴史をもつ漢方ならびに多様なかたちで存在していた療法を医学・医療の場から排除していく過程でもあった。1874年「医制」が公示されたが、そこには衛生事務の管理体系をはじめ、西洋医学に基づく医学教育と、それを土台とする医師開業免許制などが明示されている。療病院でも、すでに近代西洋医学に基づいた治療と医学教育が開始されていた。医学・医療のあり方は政策的法的に定義されつつあった。

明治中葉になると、看護教育にも近代西洋の風が吹いた。日本で近代的看護教育がはじまった頃といわれている。1885（明治18）年に看護婦養成施設である有志共立東京病院看護婦教育所が、翌年には2校が開かれた。欧米の近代看護教育に倣い、経験ではなく教育と訓練をとおして、専門的な職業としての看護婦を養成する学校であった。1886年に京都の地に開校したキリスト教系看護婦養成施設である京都看病婦学校は、新しい看護のかたちを人びとの目に明らかにした。この学校では、併設の同志社病院での看護だけではなく、個人の依頼による訪問看護を開始し、1892年には貧しい地域を対象とした巡回看護を組織化した。さらに、卒業生によって派出看護業務とそれに必要な教育がおこなわれた。

京華看病婦学校設立のきっかけは、上記のような京都看病婦学校の活動成果であった。『婦人雑誌』には、「設立の因縁」として、京華看病婦学校の設立経緯が詳細に記されている。

そもそも此学校を設けんと企てし因縁は、…京都看病婦學校でふもの、…美事に業を卒へたるもの、年々に七八名づつ世に現れぬ。されば市内はもとより、五

畿三丹又は近江若狭等、近隣の國々までも、招きに応じて親しく趣き、為に所謂「看病は医者いさおしの片腕」てふ効験いさおしを顕せしもの多かりき。斯は世の為め人の為、誠に喜ばしきに似たることなるも、熟々つらつら想ひ回らせば、眞日本の国民たるもの、殊更御佛の教えの中に栖すまわん輩ともがら、看病ついでの序を以て、耶蘇の教えを説傳とくつたへ、癒いるも癒へざる共に其心をして外道わきまうちに誘はんことこそ、彼らが任には本意なるも、いとも悲しき限りなれ。一概には陳へ難けれども、凡そ人々の心中も病ひにあれば、何程か平素の我慢薄らげるものにて、實に所謂「病ひは死なかつたの媒なち」なれば、茲ここに到りて道を説く、是ぞ一つの方便なると、他もいひ我も唱へて知らざるにはあらざれども、正しく看病婦の必要を感じたりしは、愚にも小生は、右に記せる事態を以て初めとす。次には…京都の紳士豪商の間に、病氣見舞として看病婦を送ることの流行を初めぬ。…そを看病婦を以てするは、如何に氣高き思慮ならずや。然るに此流行に際して贈らるべき看病婦は、多くは皆耶蘇教の信者なることを悲しまざるべけんや。其外御佛の方便中に、正しく醫方明いほうめいてふあるを想い、良や必要を感じ居し際なれば、…当時佛教信者の看病婦を養成せんと…<sup>3)</sup>

活動の方法を模索していた京都真宗法話会<sup>4)</sup>の幹事たちの集まりで、医療に関わり、末期患者と関わり、そして京都の人びとに受け入れられる看護婦を養成することが取り上げられたのである。

また、1897年4月の『婦人雑誌』には、本願寺看護婦養成所の設置を計画して、「愈々今回看護婦養成所を開設せり。誠に美事なり、末寺々院の婦女は先づ第一に入学せられよ<sup>5)</sup>」と記されている。1890年代には、日本赤十字社看護婦養成所をはじめ、私立病院、地方公共団体、医学専門学校、大日本私立衛生会、開業医、派出看護婦会によっても看護婦養成が開始された。1906年に華頂看護婦学校が開かれるが、『浄土教報』には、開設を目前にその意気込みが述べられている。

京都尼衆教場卒業生上田稱隆尼發起となり第五教校醫日下京平氏熱心盡力の結果、来五月一日より標題の學校設立開校の件は既に府知事より認可を得目下準備着々進行中にて、此には武田第五所長小林第五校長（小林瑞浄師のこと…筆者

3) 立雪英晋「京華看病婦学校小歴史」、『婦人雑誌』96号、1896年1月、27-28頁。

4) 『婦人雑誌』96号の27頁には、「明治二十二年の春頃より、兩本願寺末、市内二三の僧侶及び有志信者の設けられしもの」と記されている。

5) 「雑報 看護婦養成所開設」、『婦人雑誌』111号、1897年4月、19頁。

注) も大に賛成の意を表し小林氏の如きは其修身科を受持つ筈にて、日下氏尽力の結果は堂々たる醫師四名は無報酬教授を承諾して非常に熱心せらるる趣なれば其好結果を奏するは疑なく…<sup>6)</sup>

仏教活動において、看護の新しいかたちが育まれようとしていた。

## 2. 仏教系看護婦養成施設の規則

京華看病婦学校、本願寺看護婦養成所、華頂看護婦学校における看護婦養成の目的、ならびに生徒募集要綱、学科課程、実習先、教員など諸規程は表1にみられるような内容である。この表は完成したものではなく、現在までに入手した行政文書ならびに『浄土教報』、『華頂』、『婦人雑誌』における関連記事を順次列举したものである。ゆえに、各養成施設についての記載内容は一律ではない。

本願寺看護婦養成所は、1899年10月27日、「私立学校令発布に付規則規程条項記載之書類看護婦養成所規則書相添相願候也」<sup>7)</sup>と、京都府知事宛に養成所規則を上申している。そこには、表1に示した内容のほかに、在学中の試験や懲戒に関する規程が詳細に記されている。『浄土新報』の「私立華頂看護婦学校規則提要」にも同様の内容がみられる<sup>8)</sup>。

また、『婦人雑誌』には、京華看病婦学校で購入した教材について記され、「高價の物を擧れば、驗微鏡百五十圓、キンストレキ百三十圓、骨格六十圓等」<sup>9)</sup>とある。生徒心得については以下のように示されている。

…本校生徒は、縦令如何なる教義の家庭に養はるるも、勉めて二諦の教義に宿縁を尋ねべし。されば、定例として校内に開筵せる法席には、必ず眞宗の教則を装ひて以て参聴すべし。とは、生徒心得中の要旨也。看病は啻に技術の上のみに止まらず、精神的看護尤も必要也。されば、技術は國手の命令に従い、精神は常に佛陀の感化に習うべし。とは、看病婦心得中の要点也<sup>10)</sup>。

6) 「華頂看護婦学校の設立」、『浄土教報』692号、1906年4月23日、5頁。

7) 京都府総合資料館蔵、府庁文書「私立学校一件 ね三乙 第六九二號 學務係、自明治三十二年二月至全年十二月」。

8) 「私立華頂看護婦学校規則提要」、『浄土新報』692号、5-6頁。

9) 立雪、前掲書、『婦人雑誌』96号、30頁。

10) 立雪英晋「京華看病婦学校小歴史」、『婦人雑誌』97号、1896年2月、23頁。

表1 仏教系看護婦養成施設の規程（1）

	京華看護婦学校	本願寺看護婦養成所（名称） （本願寺本派看護婦養成所ト記ス）	華頂看護婦学校 1918年8月より華頂婦人会看護婦養成所
開 校	1893年5月1日  1939年廃校	1898年4月1日 1914年9月15日記録では生徒 ハ京都府立医学専門学校ニ委託  1918年5月31日廃校：大日本 佛教慈善会財団評議員会議決	1906年5月1日 1918年8月広告では華頂婦人 会の活動となり、京都帝国大学 附属病院又ハ京都府立医学専門 学校附属病院ニ於テ修業  廃校年は不明
場 所	京都市上京区姉小路通堺町西入 木ノ下町十人（1898年6月6 日移転申請） 図A	京都市下京区東中筋花屋町上ル 学林町 図B	京都市新橋通大和東入三丁目林 下町知恩院内山内（入信院のち 移転）
目 的	報じても報じ難き四恩に対し、 其万一に供せむのみ  (1924年4月1日規則) 佛教の教義に依り患者の求めに 応じて病人を患病慰撫すること 佛教ノ教旨ニ依り看護婦ニ必須 ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス	宗内ノ婦女ヲシテ専ラ看護学ヲ 修メシテ天災地殃等事故ニ依テ 生ジタル候病傷疾者ヲ看護	佛教主義の精神教育を基礎とし 温和順良にして而かも徳性の堅 固なる看護婦を養成  (1918年9月広告) 看護婦ヲ養成シ本会（華頂婦人 会のこと）ノ主旨ニ基キ親切丁 寧ニ汎ク病家ノ需メニ応ズルモ ノトス
対 象	給費生十名、通学生二十名 貸費寄宿生 自費寄宿生 尋常通学生 特志通学生：嗜み 一七歳以上三十五歳まで 特志生通学生以外は未婚か寡婦 に限る  (1924年4月1日規則) 第一年級第二年級核二十名合計 四十名ノ女性徒 保証人ハ京都 市内ニ一家計ヲ立ツル者	本宗門末ノ子女ニ就キ選抜就学 セシム本派僧侶、信徒中法義篤 信者ノ子女： 品行方正身体健康、法義信仰者 十六歳以上三十五歳以下 高等小学校第三級修業の者もし くは相当する学力を有するもの 京都市在住の身許引受人のある もの 身許引受人、本山の認める者	宗内有志の婦人 軍人遺族 十八年以上三十五年以下とし就 学期中家事に拘束せられざる者 軍人遺家族者にして入学志望者 に限り特別の便宜を与える 入学一ヶ月間を仮入学とし其間 校長は看護婦に適するや否を観 察し若し不適当と認むるときは 退校を忠告す可し  (1918年9月広告) 十六歳以上ニシテ信仰ヲ特シ品 行方正身体強健ノ者 十六年以上三十年未満トシテ身 幹四尺六寸以上
入学試験	読書 本校規則 数学 筆算加減乗除 貸費生のみ更に身体試験  (1924年4月1日規則) 体格試験 学力試験：高等女学校第二年級 程度 但し高等小学校卒業者及高等女 学校第二年級修了者ハ之ヲ要セ ス	読書 高等小学校三級教科書 作文 日用文 算術 四則雑題	体格検査 読力 仮名変り文 筆記 仮名変り文 作文 普通往復文 算術 四則雑題 但し高等小学卒業以上の者は体 格検査の外入学試験を要せず  (1918年9月広告) 体格、学科（応問読書、作文、 書取、算術） 小学校六年卒業成績良好ニシテ 尚家庭ニ於テ修養セシモノ

表1 仏教系看護婦養成施設の規程(2)

	京華看護婦学校	本願寺看護婦養成所(名称) (本願寺本派看護婦養成所ト記ス)	華頂看護婦学校 1918年8月より華頂婦人会看護婦養成所
修業年限 学年学期	二学期一学年 前期:書籍機械を以て教授 後期:実地に依り練習  (1924年4月1日規則) 修業年限ハ二ヶ年 学年ハ四月一日ニ始まり翌年三 月三十一日ニ終ル	本科兼普通科修業年限ヲ二カ年 学年ハ四月一日ニ始まり翌年三 月三十一日ニ終ル 前一年は学業、後一年は実地を 練習 学期ハ之ヲ三期ニ分ツ但シ第二 学年ハ通シテ実習期トス	修学年限は二カ年とす 学年は四月一日に始まり翌年三 月三十一日に終る学期は一学年 中に於て三学期とし第一学期は 四月五日より七月十九日に至り 第二学期は九月十一日より十二 月二十三日に至り第三学期は一 月十一日より三月三十一日に至 るものとす  (1918年9月広告) 入学ハ毎年四月十月ノ二期
休 日	(1924年4月1日規則) 大祭日、祝日、奠祭、祇園祭、 時代祭、釈尊降誕会、報恩講、 追忌会、本校記念日等	大祭日祝日日曜日及宗祖ノ生誕 命日等	毎日曜日、大祭日及び例月二十 五日並に夏期休業七月二十日よ り九月十日迄冬期休業十二月二 十四日より一月十日迄とす
学科課程 授業時間	一学年前期:生理学、解剖学、 看護術  (1924年4月1日規則) 第一学年前学期 佛教大意、倫理、国語、理科、 解剖学、生理学、看護学、治療 介輔、手術介輔、伝染病看護 法、消毒法、作法(週18時間) 第一学年後学期 佛教大意、倫理、国語、理科、 救急療法、衛生学、内科小児科 看護法、患者運搬法、綱帯学、 器械学、外科看護法、精神病看 護法、産褥婦看護法、各種看護 法、薬物学及調剤法、作法(週 18時間) 第二学年前後学期 佛教大意、倫理、実習:看護 法、按摩法(週32時間) 実習施設ハ、東山病院及松山病 院	第一学年 本科 第一期 解剖学大意、生理学大意、衛生 学大意 第二期 包帯学片ニ器械学大意、看護法 一般、産科大意、治療介輔法 第三期 消毒及防腐法、救急法、傷病者 運搬法、按摩法、病者飲食物撰 定及調理法、普通科 看護婦必須ノ普通学芸ハ前後学 年ヲ通シテ之ヲ授ク 佛教講話 通一面 読書 高等読本或ハ修身読本 作文 婦女用文 算術 四則雑題 習字 真行草 授業時間ハ毎日五時間トス	第一学年 修身、物理学大意、化学大意、 解剖学大意、生理学大意、薬物 学大意、毒物学大意、医語、症 候学大意、衛生学大意、一汎看 護学、伝染病看護法、防腐及制 腐法、器械用法及諸検査法実 習、包帯学、救急療法、患者食 物調理法、生花茶湯及諸礼式 第二学年 看護法実地練習  (1918年9月広告) 修業年限二ヶ年 京都帝国大学附属病院又ハ京都 府立医学専門学校附属病院ニ於 テ修業 学科ノ余暇随意科トシテ炊事 法、料理法、生花茶ノ湯、礼儀 作法ヲ教授スルコトアルベシ
授業料 入学料	(1924年4月1日規則) 年額金貳拾円	徴収セス 在学中学費毎月五円まで給与ス	月謝金五十銭其他寄宿生の納む 可き学費は食費及雑費として 1ヶ月金四円五十銭 (「貸費金」の制度あり、保証人 2人)  (1918年9月広告) 一定ノ学資及ビ食料ヲ支給
寄宿舎	(1924年4月1日規則) 欲スル者 食費及舎費トシテ月 額金拾貳円	生徒ハ総テ所内ニ寄宿セシム 生徒ハ其住居及行状ニ付舎監ノ 監督ヲ受ケ	寄宿することをを得ざる者は通学 を許す  (1918年9月広告) 修業中ハ本部ノ寄宿舎ニ収容監 督 寄宿舎ハ知恩院山内新門桜馬場 ニ置ク

表1 仏教系看護婦養成施設の規程（3）

	京華看病婦学校	本願寺看護婦養成所（名称） （本願寺本派看護婦養成所ト記ス）	華頂看護婦学校 1918年8月より華頂婦人会看護婦養成所
卒業後	貸費寄宿生：卒業後二ヶ年間、 義務に従事する  (1924年4月1日規則) 看護婦免許者のみ活動に従事	三年間ハ本山ノ所用ニ	(1918年9月広告) 看護婦ノ資格ヲ得タル者ハ修業 中支給ヲ受タル金額ノ多寡ニ応 ジ本会ノ任務ニ従事ス可キモノ トス
所 管		本山教学局 事務は教学局が管理	(1918年9月広告) 華頂婦人会看護婦養成部
経 費	寄付 真宗法話会会员中心 悲田会組織総額月五十～六十円 会費  (1924年4月1日規則) 京華看病婦学校附属看護婦会収 入および京華看病婦学校維持会 寄付により運営	本山ヨリ一切ノ経費ヲ支弁ス (予算)金二千七百十九円七十銭 内訳 俸給 一千六十八円 生徒学資扶助 一千二百二十五円 雑給 百八円 諸費 四百十八円 七十銭	
職 員	教員職員無給 校長：山本幾次郎（医師） 大谷勝導（僧侶） 小森芳次郎（医師） 橋川恵順（僧侶）  (1898年6月6日申請) 校主 橋川恵順（僧侶）  (1904年1月25日申請書) 校長 小森芳次郎  (1907年申請書) 生理課衛生課：山本秀暉（医師） 病理課看病課：松山為雄（医師） 解剖課：原田健太郎（医師） 佐々木龍恵（医師） 看護学：宮嶋高太（医師）  (1924年4月1日規則) 校長一名：全校ヲ総理ス 大谷勝信（僧侶） 主幹一名：事務ヲ管理シ校長ノ 事務ヲ代理 教授若干名：担任学科ヲ教授ス 倫理・理科：柳山玄成（僧侶） 解剖、生理、衛生、看護科： 松本温、森直秀（医師）（7月） 舎監一名：舎内ヲ整理シ生徒ヲ 監督ス 司計二名：物品購入金銭出納 事務員一名：事務ヲ処理	取締：事務、教員の能否勤惰な ど 大谷光尊（僧侶） 能美キミ（鹿児島開成舎出身） 教員：取締ノ命ヲ承ケ…生徒ニ 教授 舎監、書記：取締ノ命ヲ承ケ… 事務ニ従フ	校長一名：一切の校務の処理 武田芳淳（僧侶） 講師一名：生徒の教養を掌り特 性酒養の責に任ず 看護学：前田稔次郎（医師） 看護科（看護法）： 日下京平（医師） 習田勘五郎（医師） 牧野信顕（医師） 修身科：大嶋徹水（僧侶） 手芸、諸礼、生花、茶湯： 上田稱隆（尼僧） 舎監一名：寄宿舎を監督 幹事一名：校長の指揮に依り庶 務に従事し舎監は之を兼務す 維持員 若干名：本校維持に参 与

出典：京都府総合資料館蔵：府庁文書「私立学校一件 學務係」「私立諸学校 學務課」「私立学校及圖書館 學務課」、『浄土教報』、『華頂』、『婦人雑誌』設立当初の規程から大きな変更があった場合のみ、日付を入れて、その内容を記載した。記載事項は資料より引用した。但し、原則として当用漢字を用いた。括弧内は筆者が付け加えた。

『婦人雑誌』には、本願寺看護婦養成所の仏敎的特性をうかがい知ることができる次のような記述がある。1902年3月26日の第2回卒業式の祝辞に、「(大谷)令夫人」より「光明皇后は御身みづから千人のあかをすり玉ひてついに阿闍<sup>あしやくにょらい</sup>如来に値遇し玉へりされば…看護のわざを實踐し病をみとるかたはら法義をもかたりあひ身の病とともに業垢をものそかしむるにいたらば看護の能事ここに畢る」<sup>11)</sup>、また取締役より「病を見まもるわさよりも尊きはなし…唯一筋に御佛のなさけの道をもととして、妙なる法の御名をとなへながら…佛恩國恩の萬一に報い奉らはやとおもいたちて眞の慈善の道を行ひねかしと…」<sup>12)</sup>という言葉が寄せられた。

卒業生代表は次のような答辞を述べている。

…看護婦養成所の、學ひの園におひたちて、朝な夕なに取締の君を始め奉り、師の君たちの、深き恵の露を蒙りつつ、二年の年月をつくしきて、今日しもまさにわざ終わぬる、しるし文を給はる日となり…吾等かよわき女子の身をもちながら、いかなるわさをなしてか、御法に盡し、御國に答へ奉る可き、…日頃月頃授け給はりし敎のままに己をつつしみ、徳を修め、藝をみかき、術をはげみ、御佛の恵を仰きつつ、博愛慈善の心を以て、世のやまいに苦しみあるは心になやめる、同胞をなくさめたすけ、海より深く、山より高き、佛恩國恩にも報ひはやと同じ學ひの友達と共に、語ひて師の君の御諭しに答へ奉り、…<sup>13)</sup>

この年には13名が卒業した。卒業生の名簿をみると、越中××寺住職四女、京都市××寺住職姪、山口県××寺衆徒長女、広島県××寺住職長女、山口県××寺住職二女、奈良県××寺住職妹、大阪府××寺住職二女(記載順)、と末寺の住職の娘などの表記がおこなわれており、仏敎関係者が多い<sup>14)</sup>。

また、図Aは京華看病婦学校、図Bは本願寺看護婦養成所の見取図である。両方の施設に病室が設けられている。1908年11月28日付の京都日出新聞には、次のような記事があることから、京華看病婦学校では入院患者を受け入れていたことが明らかである。

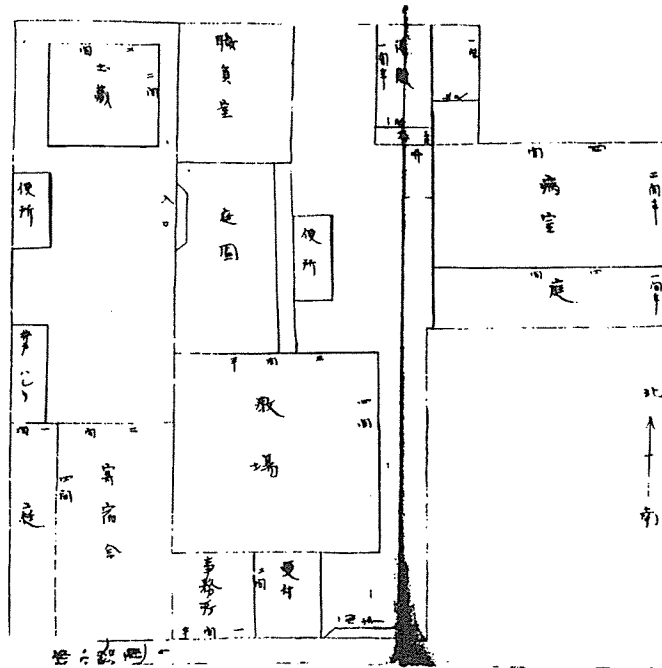
11) 「雑報 看護婦養成所卒業式」、『婦人雑誌』17巻5号、1902年5月、15頁。

12) 11) 前掲書、16頁。

13) 11) 前掲書。

14) 11) 前掲書、16-17頁。





（図 A） 京都府立総合資料館蔵府庁文書「私立学校一件 甲 第三七二番 学務掛」

…京華看護婦学校なるものを設置し目下多数の生徒を収容しつつあるが同人は本年四月中旬以来同校看護婦実習用なる名義にて…九名の患者を入院せしめ入院料、看護料、薬價等を撤収し置きながら然も其筋に対し何等の手續をも為さざりし…昨日橋川を召喚取調の末私立病院取締規則違反として告発したりといふ<sup>15)</sup>

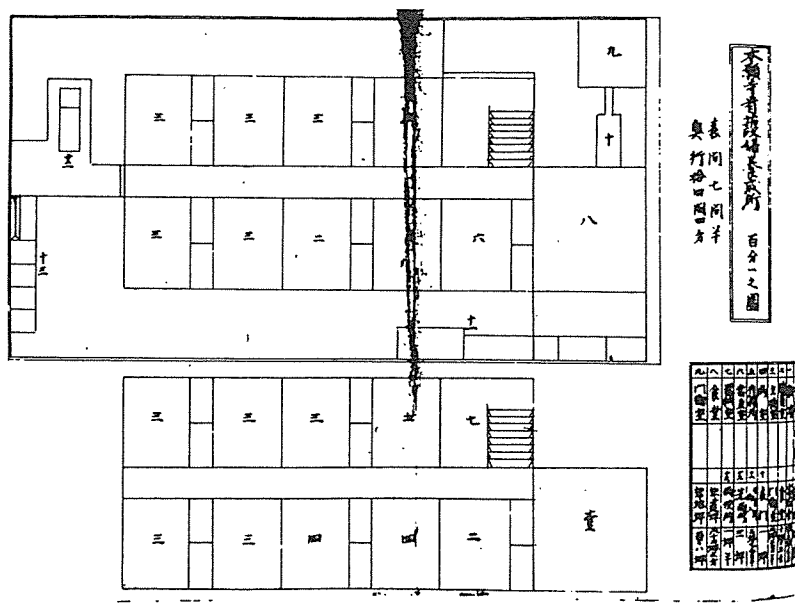
一方、1918年8月の『華頂』には、華頂看病婦学校の生徒募集の広告がある。「看護婦養成所ヲ開設シ確実ナル信仰ヲ有シ志操堅実ナル者ヲ撰ミ…」<sup>16)</sup>と書かれており、問い合わせ先は「知恩院内華頂婦人会 看護婦養成部」となっている。1906年に設置された時には、「知恩院山内 入信院 私立華頂看護婦学校」とある。1906年から1918年に至るまで、学校がどのような推移を辿ったかは不明である。

上記の華頂婦人会は1913年1月に組織された。会則の第2条には「本会ハ佛陀ノ教義ニ基キ宗祖ノ慈光ヲ仰ギテ婦徳ヲ涵養シ来世ノ得脱ヲ期スルヲ目的トス」<sup>17)</sup>とあり、広く社会事業への参加を計画していく。1918年9月の『華頂』には、「講習志望

15) 「京華看護婦学校長告發さる」, 京都日出新聞, 1908年11月28日, 7頁。

16) 「看護婦講習生募集」『華頂』322号, 1918年9月7日, 22頁。

17) 「華頂婦人会々則」『華頂』254号, 1913年1月7日, 24頁。



(図B) 京都府立総合資料館蔵府庁文書「私立學校一件 ぬ三乙 第八一四號 学務掛」

者募集」の広告とともに「華頂婦人会看護婦養成所規則」が示されており、その第5条には「看護婦ニハ厳格ナル監督ヲ為シ時々宗教講話等ノ方法ニ依リ婦徳ノ養成ニ勤ム」<sup>18)</sup>とある。その後『華頂』には、華頂婦人会看護婦養成部（のち華頂婦人会事業部）による生徒募集と学校規則に関する記事がひんばんに掲載された。

### 3. 仏教系看護婦養成施設の特徴

本研究ノートでは、行政文書ならびに雑誌に記載されている仏教系看護婦養成施設の諸規則ならびに関連記事に注目したが、そこには、仏教的側面と近代西洋医学的側面が映しだされている。

仏教的側面として、次の5点がみられる。第1は、看護婦を志す者に仏教についての教養や仏教への信心を求めたことである。本願寺看護婦養成所と華頂看護婦学校の生徒募集要綱では、宗内の女性が求められている。そして、3校とも責任ある役職に僧侶を配置し、また、本願寺看護婦養成所では設立当初から、京華看病婦学校では1924年から、学年をとおして仏教の授業科目が組みこまれた。

18) 「看護婦講習志望者募集」『華頂』344号、1918年9月7日、裏表紙。

第2は、仏教精神を基調とした看護活動を目指したことである。京華看病婦学校では「精神は常に佛陀の感化に習うべし」<sup>19)</sup>と示され、前述の本願寺看護婦養成所の卒業式答辞には、看護婦となって世に出ていく者の自覚としてそのことが述べられている。第3は、その看護活動の特性に、臓器の治療にたいする面だけではなく、病む人への慰めという面を強調したことである。京華看病婦学校附属看護婦会会則には「病者ヲ看護慰撫」<sup>20)</sup>という言葉で示されている。このことから、病む人との会話が重視されたであろうと考えられる。

第4は、仏法を示すことが看護の方法の一つと考えられたことである。本願寺看護婦養成所では活動の一つとして、「法義をもかたりあい」<sup>21)</sup>、あるいは「妙なる法の御名をとえながら」<sup>22)</sup>と記されている。また、京華看病婦学校の設立動機として、京都看病婦学校のキリスト教伝道の成果が言及されている。ところで、仏法を示すことは、布教という行為も含まれたのであろうか。また、病む人に仏法の何が示されたのか。それは、今後の研究課題としたい。

第5は、看護活動を、病にある人のためだけではなく、活動を行なう人自身のためのものと捉えたことである。京華看病婦学校では、看護活動をして「四恩に對し、其萬一に供せむのも」<sup>23)</sup>と、本願寺看護婦養成所では仏恩に報いること<sup>24)</sup>と示している。また、大正期に華頂看病婦学校を運営した華頂看護婦会の目的は、「佛陀ノ教義ニ基キ宗祖ノ慈光ヲ仰ギテ婦徳ヲ涵養シ來世ノ得脱ヲ期スル」<sup>25)</sup>ことであった。看護をおこなう者にとって、その行為が修業的な性質をもち、信仰的行為そのものであったのではないかと推測する。つまり、看護活動は使命としての職務であった。生活の糧を得るための方法ではなく、病む人に慈愛を施し、自らは仏道に帰依するという性質をもっていたのであろう。

近代西洋医学的な側面としては、次の2点があげられる。第1に履修科目には、漢方でも伝統的な方法でもなく、政府が認可した近代西洋医学に関するものを中心においたことである。3校とも当時の看護婦養成施設のなかでは長期である2年間の修学

19) 9)に同じ。

20) 京都府立総合資料館蔵、府庁文書「私立學校及圖書館 二子 第九二九六冊 學務課、大正十三年自一至七」。

21) 11)に同じ。

22) 12)に同じ。

23) 9)に同じ。

24) 13)に同じ。

25) 17)に同じ。

年限を設け（京華看病婦学校では1924年度から）<sup>26)</sup>、1学年目には教養科目とともに看護の基礎となる専門的な講義をおこなった。その内容は表1に示したように、看護法をはじめ基礎医学から臨床医学、衛生学などにわたっている。

第2に指導者は、近代西洋医学を修得し、医業開業の国家資格を取得した医師（当時暫定的に、従来より医業をおこなう者の開業を一代に限って許可したため、その中には、漢方その他にもとづいて治療をおこなう「医師」も存在した）であった。また3校とも、実習先や修業先は京都府立医学専門学校附属病院など近代西洋医学による治療をおこなう医療施設であった。

以上のような近代西洋医学による知識と技術の習得をはじめ、3校とも国家の動向を意識したところがみられた。京華看病婦学校では真宗法話会の本領として「聖代の御徳を仰ぎて、強兵富国の道に進ましめむ」<sup>27)</sup>とあり、本願寺看護婦養成所では看護活動を「佛恩國恩の万一に報い奉らばや」<sup>28)</sup>と示している。また、華頂看病婦学校では、生徒として宗内の女性だけではなく軍人遺族の入学を優遇した。

その一方で、京華看病婦学校がキリスト教系看護婦養成施設である京都看病婦学校のあり方に影響を受けたこともあった故か、仏教系3校とこのキリスト教系の学校にはいくつかの共通点がみられた。近代西洋医学にもとづくカリキュラム、2年間の養成課程はもとより、信仰を看護精神と重ね合わせていることである。ゆえに、看護という仕事のなかに慰めの要素や信仰を語ることがふくめられた。また、活動の方法として訪問看護が重視された。これらのことは、病む人の看護だけではなく家族との関わりや家族への指導をもたらし、その結果、家族が看取りの過程に参加することを可能にしたと考えられる。

## お わ り に

明治期京都に生まれた仏教系看護婦養成施設では、その教育方針において、伝統的な仏教教理と国家的法的に認可された医学・医療である近代西洋医学とを選択した。本研究ノートでとりあげた仏教系3校の様相は、2つの点で興味深い。それは、仏教活動にみいだされる要素としてであり、日本の近代看護形成期において長期にわたっ

26) 当時の看護婦養成所のカリキュラムは千差万別で、養成期間が約1か月（当時流行していた伝染病罹患者への看護を目的とした看護婦養成施設などは短期間）の施設もあれば、見習として働きながら看護の知識を学んでいくというコースもあった。

27) 1)に同じ。

28) 10)に同じ。

て存在した学校としてである。前者においては看護の意味ひいては仏教活動そのものを、後者においては近代日本における看護婦（士）の職能を、考察していく手がかりとなる。

そのために次の研究ノートでは、仏教系看護婦養成施設を修了した看護婦の実際の活動と活動における癒しの方法や考え方について、それぞれの宗派の婦人会活動を考慮しながら検討したい。そのうえで、近代日本における仏教看護活動の特性を明らかにしていきたいと思う。

#### 〈参考文献〉

京都府立医歯科大学創立 80 周年記念事業委員会 『京都府立医歯科大学 80 年史』、創立 80 周年記念事業委員会、1963 年。

亀山美知子 『近代日本看護史 Ⅲ宗教と看護』、ドメス出版、1985 年。

看護史研究会 『看護学生のための日本看護史』、医学書院、1997 年。

小野尚香 「京都看病婦学校と宣教看護婦リング・リチャーズ」『来日アメリカ宣教師』、現代史料出版、1999 年。

村岡 潔 「現代社会における仏教ヘルスケアの可能性」、『佛教大学総合研究所紀要』第 7 号、2000 年、85－93 頁。